

主 題 名 在日韓国・朝鮮の人権問題の解決に向けて

教 材 名 人は知ることで、たくましくなれる、優しくなれる

人権学習の視点 個別的な視点「外国人の人権問題」

主題・教材について 京都府に住む在日外国人の約3人に2人が韓国・朝鮮籍の人であるという調査結果が出ている。(H19年：法務省) それだけ関わりの深い韓国・朝鮮について、「見えにくい」存在になっていることも確かである。ここでは、映画「パッチギ!」の一場面から人権問題を正しく理解することの大切さを考えさせ、韓国・朝鮮と日本の歴史、在日韓国・朝鮮人の人権問題について調べる学習や資料を通して、在日韓国・朝鮮人の人権問題についての正しい理解と認識の基礎を培いたい。

ね ら い 在日韓国・朝鮮人の人権問題を日本との歴史的背景を通して正しく理解することにより、異なる民族や文化を尊重し、共に生きる社会を築こうとする態度を養う。

本時の展開 (1/2時間目)

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導 入	○日本に住んでいる外国人について考えさせる。	一斉	○日本にたくさんの外国人が生活していることを知る。 ○韓国・朝鮮人の割合が多いことを知る。	○P.74、75の「世界から日本へ」を導入に使う。	資料集 P.74、75の「世界から日本へ」
在日韓国・朝鮮人の人権問題について考えよう。					
展 開	○資料「人は知ることで、たくましくなれる、優しくなれる」を読み、在日韓国・朝鮮人の人権問題を考えさせる。	一斉	○日本と韓国・朝鮮の間の歴史、在日韓国・朝鮮人の人権問題についてしっかりと学習することの大切さに気付く。	○様々な人権問題と同様、何もせずほうっておいても問題は解決しないこと、まず知ることの大切さを気付かせる。	資料集 「人は知ることで…」
調べてみよう「日本と韓国・朝鮮」。					
開	○日本と韓国・朝鮮についてその歴史、現在の在日韓国・朝鮮人の人権問題について調べさせる。	個別グループ	○ワークシートに沿って、「1910年～終戦まで」、「終戦～」について社会科歴史教科書、公民教科書等を使って調べる。	○社会科教科書や図書館の資料、インターネット等を利用	ワークシート 1 調べてみよう 日本と韓国・朝鮮
ま と め	○本時のまとめをする。	一斉グループ	○グループごとにまとめ次時に発表する内容の確認をする。	○時間が不足した部分については次回までの宿題とする。	

本時の展開 (2/2時間目)

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導 入	○前時の内容を振り返らせる。	一斉	○前時の学習内容を振り返る。		
グループごとに発表しましょう。					
展 開	○グループごとにまとめたことを発表させる。	一斉	○それぞれのグループでまとめたことを発表し合う。	○他のグループの意見をしっかりと聞かせる。	ワークシート 2 考えよう 日本と韓国・朝鮮 項目①

展 開			<ul style="list-style-type: none"> ○日韓併合～終戦 <ul style="list-style-type: none"> ・韓国併合以降の日本による韓国の植民地化、同化政策が行われたこと、土地調査事業で多くの朝鮮農民が土地を失い日本への移住を余儀なくされたことをおさえる。 ・朝鮮の独立運動をおさえる。 ・関東大震災の混乱時、多くの朝鮮人が殺されたことをおさえる。 ・戦時体制が強まるなか、創氏改名等が行われたこと、朝鮮や中国から強制的に動員され鉱山等で働かされたことをおさえる。 ○終戦～ <ul style="list-style-type: none"> ・日本の敗戦により、朝鮮は植民地から解放されたこと、北緯38度線を境に朝鮮戦争が起こったこと、多くの朝鮮人が日本に残らざるを得なかったことをおさえる。 ・現在でも入居や就職などでの差別が残っていること、差別をなくす取組が進められていることをおさえる。 ・在日韓国・朝鮮人（その子孫も含め）がの民族の誇りを守りながら様々な分野で活躍していることをおさえる。 	
	<p>偏見はどこから？偏見、差別がどのような事態を招くのかを考える。</p>			
	○日本と韓国・朝鮮についてその歴史を振り返るなかで、偏見、差別の行き着く先を考えさせる。		○関東大震災の混乱の中、起こった悲劇を偏見、差別の視点で理解する。	○偏見や偏見がどのように進んでいくかを具体的な例をあげて説明し理解しやすくする。
<p>共に生きる社会をめざして自分にできることを考える。</p>				
	○生野コリアタウンや東九条マダンの取組を知らせ、民族的立場の違いを認め合い、共に生きる社会を作るために、自分にできることを考えさせる。	一斉個別	○民族的立場の違いを認め合い、相互交流、相互理解、相互発見しようとする取組を知る。 ○共に生きる社会をめざして自分にできることを考える。	○府内の中学校でも人権学習の一環としてコリアタウンを訪れ、学校で学んだ歴史や人権問題の認識を深める取組をしているところがある。
まとめ	○2時間のまとめをする。	一斉	○学習を振り返り、思ったこと、感じたことを交流する。	

資料集
「日本と韓国・朝鮮その歴史の中で」

資料集
「生野コリアタウン」
「東九条マダン」
ワークシート2
考えよう
日本と韓国・朝鮮
項目②

評価

在日韓国・朝鮮人の人権問題を日本との歴史的背景を通して正しく理解し、異なる民族や文化を尊重し、共に生きる社会を築こうとする態度を養うことができたか。

※旧生駒トンネル

1911年着工、難工事の末、1914年開通。落盤事故が何度も起こり、1913年1月26日には大落盤事故が発生、150人ほどが生き埋めになり、約20人が犠牲となった。このトンネル工事で亡くなった朝鮮人の方の名前が過去帳や石碑に残っており、その過去帳の中には、「朝鮮人飯場」があったことが記されている。生駒駅近くの宝徳寺境内には、旧生駒トンネル工事の「韓国人犠牲者無縁仏慰霊碑」が建てられている。（参考資料／「生駒市外国人住民教育の手引（実践事例集）」生駒市・生駒市教育委員会）

※日韓併合後の在日朝鮮人の人口状況と労働

1911年に2527人であった在日朝鮮人の人口が、1944年には1936843人（内務省警保局資料より）となった。鉱山での労働や鉄道・道路・ダム建設など苛酷な労働が多く、国会議事堂の建設の際も朝鮮人が労働者として従事していたとされている。